2026 年 11 月社長会見

2026 年 11 月 18 日

1. 営業・輸送概況

2. 技術革新で列車遅延影響の低減へ

　～在来線営業線区に高性能セクションインシュレータを国内初導入～

3. 企業単独の脱炭素から、サプライチェーン全体の脱炭素へ

　～JR 西日本×東京海上スマート GX　GHG 排出量削減に向けた新たな連携～

4. 「JR 西日本グループイノベーション＆チャレンジデイ」の開催について

詳細

0. 冒頭

　まず、本日のテーマに入る前に、11 月 24 日以降、大阪駅直結のルクアサウスに順次開業いたします「ルクアキャラクターズワールド」について申し上げます。

　昨日内覧会を実施し、本日よりプレオープンを迎えております。昨日も多くの報道機関の皆様にご取材いただきまして本当にありがとうございました。国内外で非常に人気の高いキャラクターが大集結する国内最大級の「キャラクターの聖地」を皆様にお楽しみいただければと思います。

　なお、当面は、お客様の安全を最優先に考え、「事前抽選」または「先着入場券」制とさせていただきますので、ご理解を賜りたく存じます。

1．営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入につきましては、10 月は前年比で 103.1%、11 月は 14 日までで 105.1%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
10月	103.1%	99.6%	104.6%	102.3%
11月 (11/1～14)	105.1%	105.7%	105.6%	102.0%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況です。山陽新幹線は、10 月が前年比で 102%、11 月が 14 日までで 102%となっております。近畿圏は、10 月が 99%、11 月が 14 日までで 103%となっております。

	前年同日比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏 自動改札通過人員
10月	102%	110%	98%	99%
11月 (11/1～14)	102%	100%	98%	103%

※実績は速報値。

10 月は、昨年の大阪・関西万博の反動による減少がある中でも、それを上回る多くのお客様にご利用いただきました。

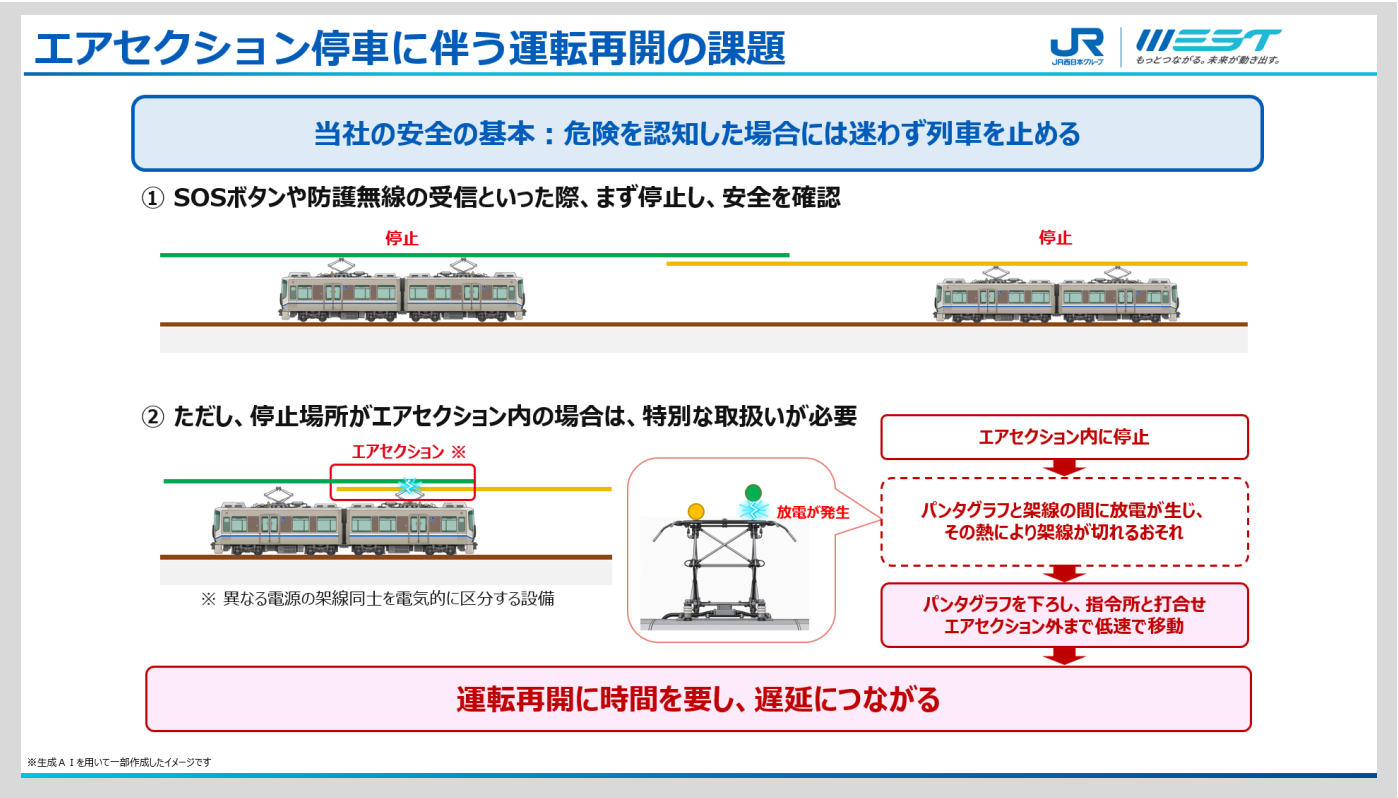
引き続き皆様に安心して、ご利用いただけますよう、安全・安定輸送に努めてまいります。

2. 技術革新で列車遅延影響の低減へ
～在来線営業線区に高性能セクションインシュレータを国内初導入～

続きまして、「技術革新で列車遅延影響の低減へ～在来線営業線区に高性能セクションインシュレータを国内初導入～」についてご説明いたします。



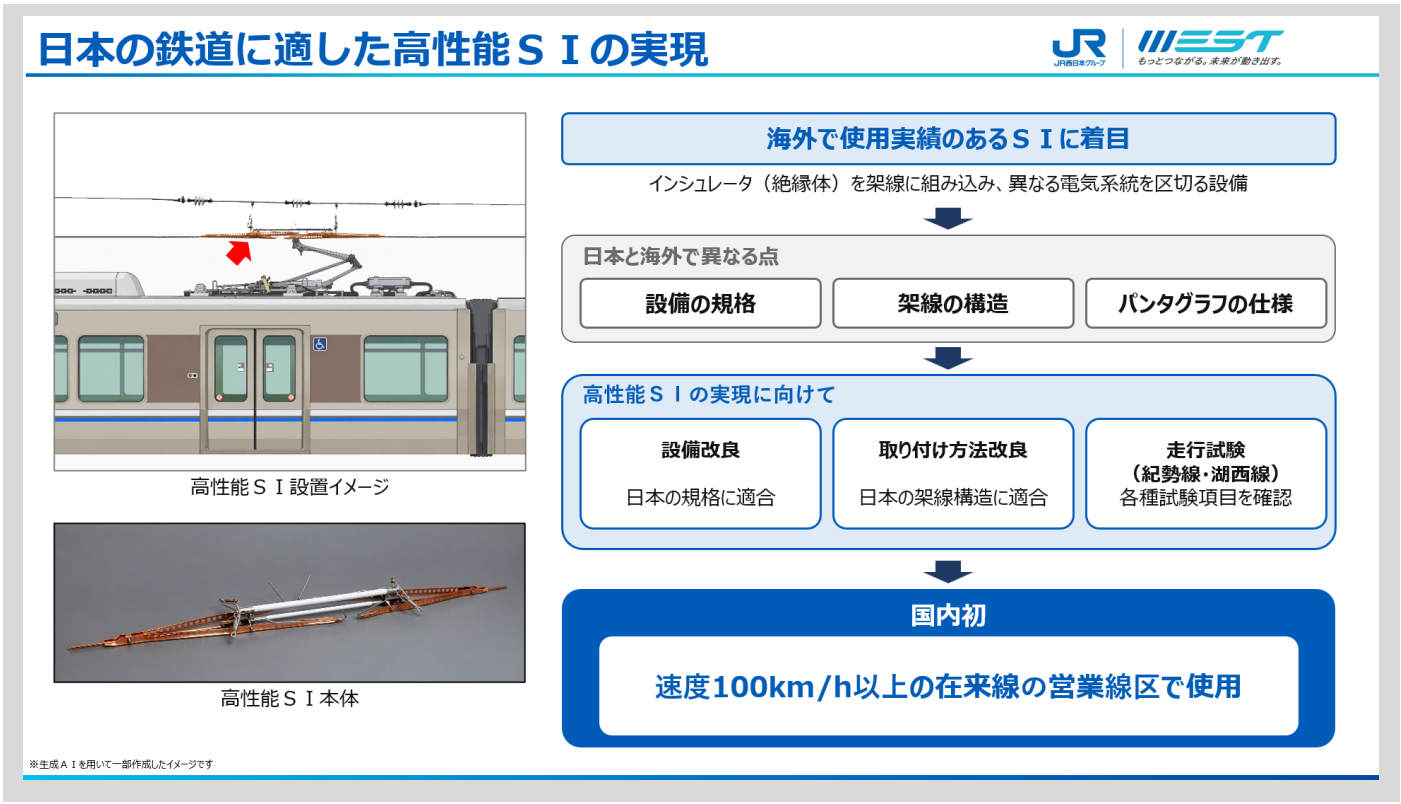
本取り組みは、「JR 西日本グループ中期経営計画 2030」に掲げております「安全、良質でサステナブルなモビリティへの変革」に向けた「技術による革新」の一環でございます。私共の技術ビジョンに掲げております「鉄道の更なる安全性向上と持続的進化」を目指す取り組みの一環でございます。



当社では、列車の運行中に危険を認知した場合には迷わず列車を止めるという取扱いとさせていただいております。例えば、車内で SOS ボタンが取り扱われた場合や、周囲の列車から、異常を知らせる防護無線を受信した場合は列車を停止させます。その際、列車が、変電所が異なる電気系統を区切る「エアセクション」内に停止した場合、通常の運転をすぐに再開することができないようになっております。

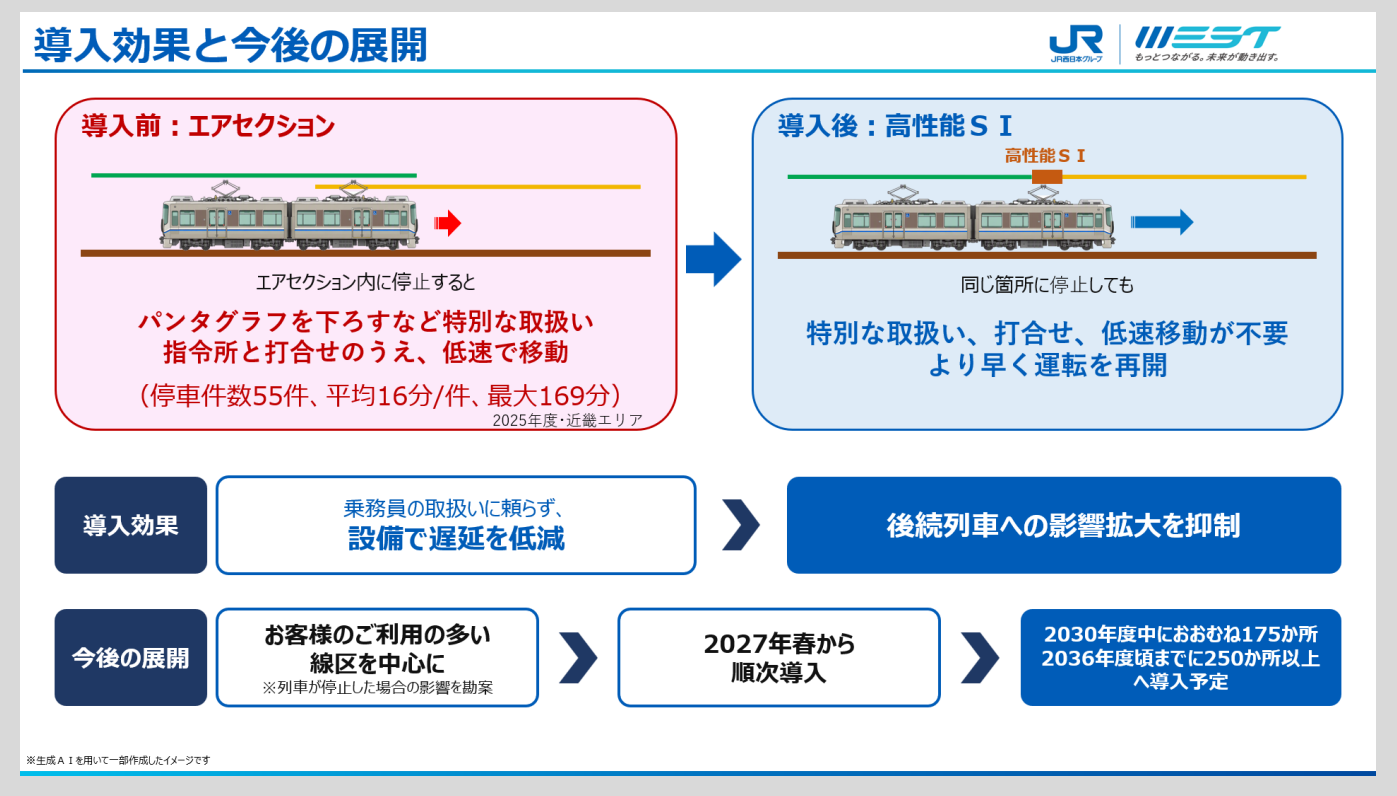
それは、エアセクション内に停車した列車が運転を再開しようとすると、パンタグラフと架線との間に放電が生じ、その熱によって最悪の場合、架線が切れるおそれがあるためでございます。

このため、乗務員はエアセクション内で停止した場合はまず、列車に電気を取り込んでおりますパンタグラフを下ろさないといけないようになっております。また、指令所と打合せのうえ、エアセクションの外まで列車を低速で移動させる必要がございます。運転再開に時間を要し、お客様にご迷惑をおかけする遅延につながっております。



こうした課題を解決するため、当社は、海外で使用実績のあるセクションインシュレータを、在来線鉄道に適合するよう性能を高め、国内で初めて導入いたします。セクションインシュレータとは、電車に電気を供給する架線を電気的に区分するための絶縁装置でございます。

この設備は国内の規格や架線構造等と適合しない場合がありましたので、この海外の設備の仕様や取り付け方法を改良し、各種の走行試験を重ねることで日本の鉄道に適した高性能なセクションインシュレータを実現することができました。これによりまして、国内で初めて、速度 100km/h 以上の在来線営業線区でも使用できるようになりました。



高性能のセクションインシュレータを導入することで、これまでのエアセクションをなくし、列車がその場所に停止してしまった場合でも、これまでのようにパンタグラフを下ろす等の特別な取り扱いが不要となります。指令所との打ち合わせや低速での移動も不要となるため、早期の運転再開と遅延影響の低減が可能となります。

まずは 2027 年春から７カ所で使用を開始し、その後は、線区ごとのご利用状況等をふまえ、2030 年度中におおむね 175 か所、2036 年度頃までに 250 か所以上へ導入を進めてまいります。

3. 企業単独の脱炭素から、サプライチェーン全体の脱炭素へ
～JR 西日本×東京海上スマート GX　GHG 排出量削減に向けた新たな連携～

続きまして、当社グループのサプライチェーン全体の GHG――GHG というのは温室効果ガスのことですが――その排出量、いわゆる「スコープ３」の削減に向け、東京海上スマート GX 様と開始する新たな協働の取り組みについて、ご説明させていただきます。

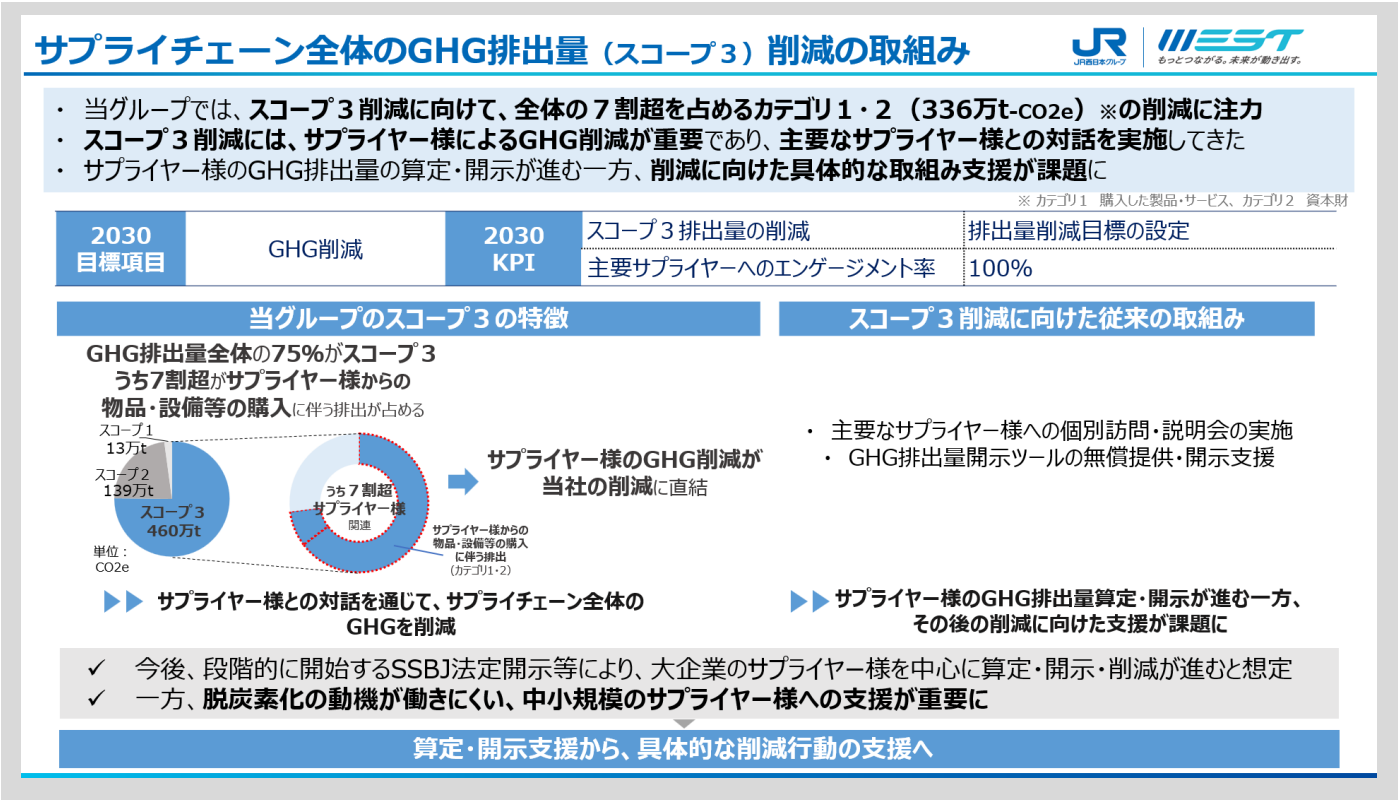


当社グループでは、中期経営計画 2030 におきまして、環境にやさしい鉄道を軸に、グループ全体のアセットを活用し、持続可能な地球環境に貢献するという方針を掲げております。グループ内の取り組みにとどまらず、様々なステークホルダーの皆様と共創し、地球環境保護に向けた挑戦を進めております。

GHG 削減の分野では、サプライチェーン全体のスコープ３排出量の削減に向けて、お取引先様などとの協働を進めております。

また、お客様や他社の皆様との協働を通じた、行動変容の促進にも取り組んでおります。JR 東海・JR 九州との３社連携による、新幹線の CO2 排出量実質ゼロ化サービス「GreenEX」は、企業のスコープ３削減を支援するもので、現在、48 社の企業様で導入いただいております。

このほか、当社としまして、ハチドリソーラー株式会社様との連携による住宅向け太陽光発電設備のリースサービスなど、各ステークホルダーとの共創を念頭に、脱炭素に関する新たな事業機会の創出に取り組んでおります。



2025 年度実績では、当社グループの GHG 排出量のうち、約 75%をスコープ３が占めています。 また、その７割を超える部分を、サプライヤー様からの物品・設備等の購入に伴う排出量が占めております。

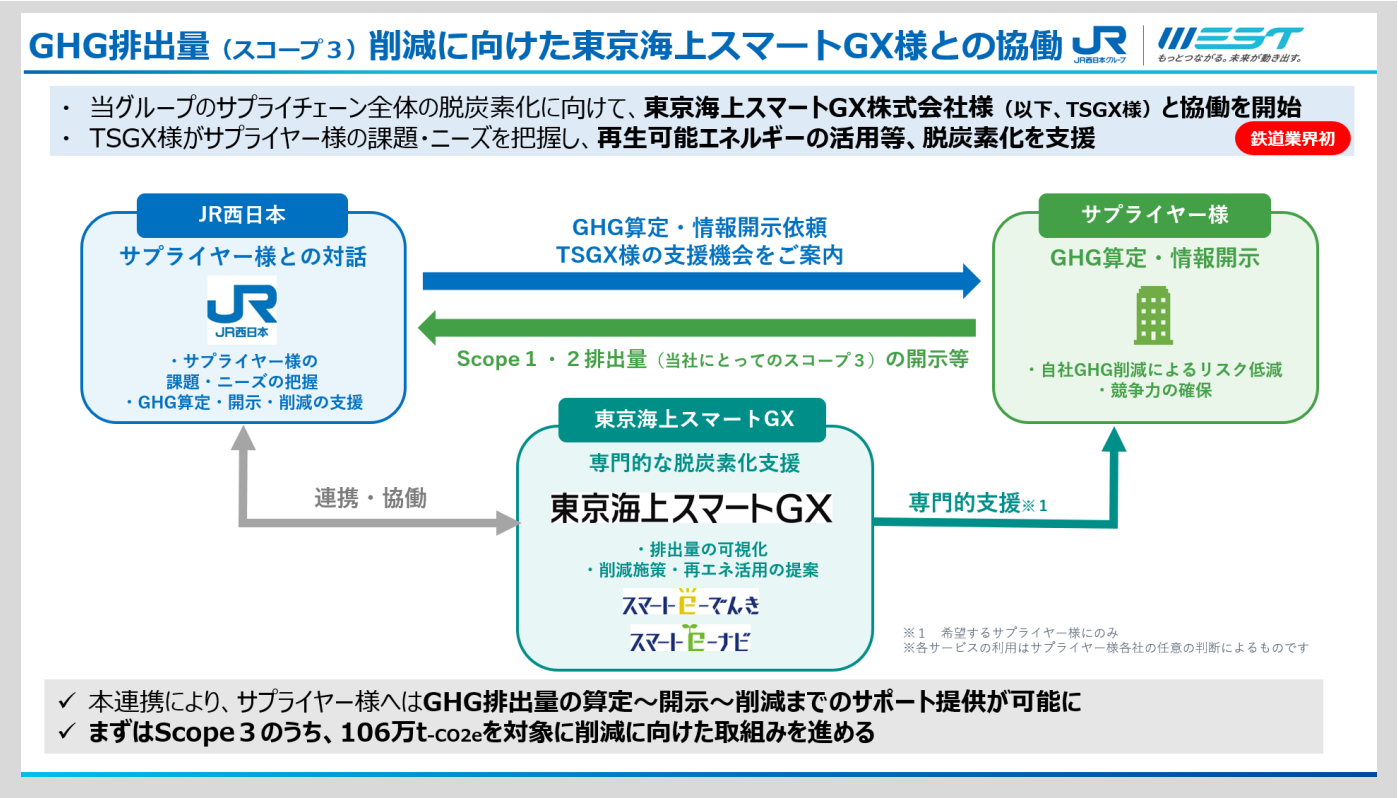
このため、当社グループのスコープ 3 を削減していくためには、サプライヤー様とともに GHG 排出量の削減を進めていくことが重要となります。

これまでも、お取引額の大きい主要なサプライヤー様への個別訪問や説明会等を通じた対話を進めるなどし、GHG 排出量の開示ツールを無償で提供するなど、算定や開示を支援してまいりました。一方で、排出量を把握した後の、具体的な削減策の検討や実行をどのように支援していくのかが課題となっています。

また今後、2027 年３月より段階的に開始されますサステナビリティの法定開示などにより、大企業のお取引先様を中心に算定・開示・削減が進むものと想定しております。

こうした状況をふまえ、資本市場からの要請による脱炭素化の動機が働きにくい中小規模のサプライヤー様も含めまして、具体的な削減のための行動までご支援することが重要であると考えています。

そこで今回、サプライヤー様に対するご支援を、排出量の「算定・開示」から、具体的な「削減行動」へと一歩進めるため、新たな連携を開始いたします。



このたび、サプライチェーン全体の脱炭素化に向けて、東京海上スマート GX 株式会社と連携した取組みを開始いたします。

当社は、サプライヤー様との対話を通じて、脱炭素化に関する課題やニーズを確認し、ご希望されるサプライヤー様に、東京海上スマート GX 株式会社による支援の機会をご案内いたします。

東京海上スマート GX 株式会社には、専門的な知見を生かし、GHG 排出量の可視化や具体的な削減施策、再生可能エネルギー活用の提案など、それぞれのサプライヤー様の状況に応じた支援を行っていただきます。

これによりまして、サプライヤー様の GHG 排出量削減を進めるとともに、当社グループとしても、サプライチェーン全体の GHG 排出量、つまりスコープ３の削減につなげてまいります。

今回の連携により、GHG 排出量の算定から開示、具体的な削減まで、一気通貫で支援できる体制を整え、まずはスコープ３カテゴリ１・２を約 106 万トン程度削減することを目指しております。今後も、地域・社会の様々なステークホルダーの皆様との共創を通じて、持続可能な地球環境に貢献してまいります。

4.「イノベーション＆チャレンジデイ」の開催について

最後となりますが、12 月 22 日・23 日に開催いたします「イノベーション＆チャレンジデイ」についてお知らせいたします。



本日ご紹介する「イノベーション＆チャレンジデイ」は、2022 年から弊社グループが開催させていただいており、今回で５回目となります。

今年５月の鉄道技術展で展示いたしました鉄道関連の技術や 10 月の CEATEC（シーテック）で展示しましたデジタル関連の内容に止まらず、JR 西日本グループ中期経営計画 2030 で掲げました「価値創造モデル」を会場で体感いただけるよう、「モビリティ」、「生活サービス」、「インフラソリューション」の３つの重点分野を軸にいたしまして、弊社グループ各社及びパートナー企業の皆様の様々な技術・サービス・取り組みをご紹介する総合展示会となっております。

今回は、例えば、昨年の大阪・関西万博で大変人気を博した大阪ヘルスケアパビリオンに私共ＪＲ西日本グループがご提供いたしました「カラダ測定ポッド」の小型・軽量化したものを展示し、体験いただくことができます。また、９月の会見でご説明させていただきました「mitococa SUU（ミトコカ　スー）」など、業種を超えてご活用いただける、新たな価値創造・創出の取り組みをご紹介させていただきます。

そのほか、今年 5 月に資本業務提携を発表いたしました関西みらい銀行の原藤社長をお招きし、移動と金融の融合による新たな価値創造に関するパネルディスカッションや、元サッカー日本女子代表の澤穂希さんのご講演をいただくなどのプログラムも予定しております。

どなた様にもご参加いただけますので、ご来場を心よりお待ちいたしております。